

村内で出ている二酸化炭素量ってどのくらい？

村では、「第2次東海村環境基本計画」(平成24～33年度)に基づき、村内のどこからどのくらいの二酸化炭素が排出されているのかを把握するため、毎年、二酸化炭素排出量実態調査を行っています。平成28年5月13日には「地球温暖化対策計画」が閣議決定されるなど、さらなる削減に向けて努力が必要とされています。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)

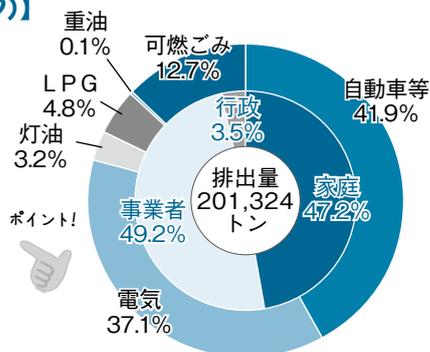
【平成27年度主体別・排出源別二酸化炭素排出量(下表)とその割合(右グラフ)】

	(トン・CO ₂ /年)			
	家庭	事業者	行政	合計
自動車等	40,726	43,589	175	84,490
電気	26,555	42,354	5,900	74,810
灯油	2,467	3,840	149	6,456
LPG	7,052	2,411	134	9,598
重油	0	352	0	352
可燃ごみ	18,312	6,546	761	25,619
合計	95,112	99,092	7,120	201,324

内円…主体別排出割合
外円…排出源別排出割合

円グラフのとおり、自動車等の利用と電気使用による二酸化炭素の排出が大半を占めています。環境に優しいエコドライブや節電・省エネに努めましょう！

※各項目ごとに数値を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。



「地球温暖化対策計画」とは？

「地球温暖化対策計画」とは、COP21で採択されたパリ協定などを踏まえ、わが国の地球温暖化対策を総合的・計画的に推進するためのものです。同計画では、温室効果ガスを2030年度に2013年度比で26パーセント削減するために、中期目標として各主体が取り組むべき対策や国の施策を明らかにし、削減目標達成への道筋を示しています。また、長期的目標として2050年までに80パーセントの温室効果ガスの排出削減を目指すことを位置付けており、わが国が地球温暖化対策を進めていく上での礎となるものです。

「認知症徘徊模擬訓練」を実施！

早めの連絡・声掛けが早期発見につながります！

10月6日、認知症高齢者等が徘徊により行方不明になった場合を想定した「認知症徘徊模擬訓練」を行いました。この訓練は、行方不明者の早期発見・保護のためのセーフティネットとして、実行力の高い仕組みをつくることなどを目的に、毎年実施しているものです。当日は、「あんしん・おかえりネットワーク」を活用して協力者にメールを一斉配信するなど、一般の皆さんにもご協力をいただきながら行われました。

●問い合わせ 地域包括支援センター(☎287-2525)

【どんな訓練をしたの？】

①行方不明者の発生を想定し、行方不明者役(3人)が区内を移動②家族等から通報を受けた地域包括支援センターがメールや村公式アプリ、防災行政無線放送等で情報を配信③地域住民等の協力により、行方不明者の捜索、発見・保護——を行いました。

【参加者の声は…】

- 訓練を重ねるごとに、行方不明者情報を得た際に、身近な周辺を確認するようになった。
- 勇気を出して声掛けをして良かった。
- 今後も訓練を繰り返した方が良い。

【心配なことがあったら、早めにご連絡ください！】

地域包括支援センターでは、認知症高齢者やその家族が、住みなれた地域で安心して暮らせるよう、相談による支援を行っています。今年度も「外出して帰ってこない」「家にいない」など行方不明高齢者の情報が入っています。情報が入り次第、地域包括支援センター職員のほか、関係事業所等の協力を受け、早急に捜索活動を行っています。**捜索が早ければ早いほど早期に発見されるケースが多く見られます。**もし、家族が行方不明になった場合は「そのうち帰ってくるだろう」と過信せず、地域包括支援センターへ早めにご連絡ください。

